

2024年度（令和6年度）施設関係者評価結果公表シート

学校法人 豊中キリスト教会学園
幼保連携型認定こども園 豊中愛光幼稚園

1. 教育方針

キリスト教精神に基づき教育・保育を行うこと。自由遊びと異年齢保育を通して自ら「考え、学び、創り出す」者となり、他者と共に生きる心を育む教育・保育を行うこと。その中で、主体性と社会性が育まれ、また体育活動を行うことで、心身ともに調和のとれたこどもに成長するよう願う。こどもを真ん中におき、教育・保育をめざす。

2. 教育方針と目標を実現するための方法

1. キリスト教精神に触れ、神を愛し、人を愛し、自分を愛する心を持ったこどもに育てる。
2. あそび込むことを大切にすることで個が育ち、自らが考えて決めるに喜びを感じ、主体性と創造性をもったこどもに成長するように導く。
3. 異年齢保育を進めることで、他人（ひと）とのつながりを楽しみ、人から学ぶ心を養う。
4. きめ細かく配慮された環境作りを通して、乳幼児の成長と健康・安全を守る教育・保育を推進する。

3. 事業計画

園の特徴(キリスト教保育、異年齢保育、チーム協働、子育て支援など)の充実と質の向上につながる下記5事業について、事業年度の社会情勢も踏まえながら、積極的に取り組んでいくように努める。

1. 教職員の教育・保育力の向上
2. 教育・保育環境の改善
3. 働きやすい職場環境の構築
4. 子育て支援事業の実施
5. 次の100年に向かう事業計画の実施

具体的な事業計画を以下のようにまとめる。

認定こども園豊中愛光幼稚園

2024年度事業計画

1. 教職員の教育・保育力の向上

2024年に創立100周年を迎える、お祝いと感謝の一年を送った。その中で教職員は、歩んできた歴史と今を振り返ることでキリスト教保育の実践がこどもたちの未来へつながる礎であることを再認識した。同時に、キリスト教保育指針の改定もも行われていたため、園としてキリスト教保育の原点に立ち返る学びを深める一年とする。キリスト教保育の実践が、近年求められている教育・保育力の向上に欠かせない【自己肯定感、非認知能力の獲得、隣人と共に生きる力】を養うと考える。また、グローバル化と多様化が進む現代社会において園に求められる支援とはなにかを社会状況を踏まえながらより丁寧に取り組んでいく必要がある。

教職員は引き続き、園内外の研修への参加や日ごろから相互の対話と共有を図りながらこどもを真ん中においていた教育・保育計画の立案と展開を目指していく。

教職員間が互いを敬い、認め合う関係性構築と協働を図って、教育・保育の向上に努めていく。

2. 教育・保育環境の改善

こどもの姿に応じた異年齢保育の工夫と実践、乳児チームから幼児チームへ連続性のある日々のつながりや、小学校進学に向けての年長児クラスの連携についてなど、一人ひとりと集団の育ちを見通した教育・保育計画を丁寧に進めていく。その中で、こども自身が考え、発見し、学びとなる人的、物的環境の設定などの具体的配慮を検証していく。こどもの学び育ち安全性におけるハード面の改善も必要に応じて進めていく。

3. 働きやすい職場環境の整備

年次休暇、育児休暇の取得を協力し合って行えるように、以下の項目の取り組みを継続して進めていく。

- ① 教職員同士が育ち合う関係性の構築のため、各自で役割分担を相談し合うこと、お互いの意識改革とコミュニケーションに努める。
- ② 実習生、アルバイト、ボランティアスタッフ(学生)の受け入れ。
- ③ デジタル化(ITC)の推進と、効果的な運用を積極的に行う。

4. 計画性を持った子育て支援の実現

地域・少子高齢化社会の中で求められる支援と園で実現可能な支援のあり方を相互に検討しながら進めていく。その中で、安心して子育てを楽しめる環境を提供し、地域に根差した園となるよう取り組む。

- ① 園庭開放『ひよこ』の月1回程度の開催
- ② キンダーカウンセラーの実施
- ③ 子育て相談の実施と取り組み
- ④ 2歳児の親子教室『うさぎぐみ』開講
- ⑤ P.T.A活動への協力と連携
- ⑥ 子育て応援のための講演会や集いの場等の実施
- ⑦ 卒園児支援『ひかりのこ』(新約聖書から抜粋)クラスの実施
- ⑧ 実習体験の受け入れ(支援学校生、中学生、就労体験など)

5. 次の100年を目指した取り組み

1. 創立100周年の記念誌作成と絵本作りの準備にとりかかる。
2. 創立100周年記念事業『園庭創り』の中長期的プロジェクトを開始する。
2025年度は、大型遊具(シャトレー)解体に取り掛かり、それに伴う感謝会を開催する。
3. 大規模修繕等を実施するための積立金
建造物や設備の経年劣化や老朽化に伴う大規模修繕を実施するために積立等により計画的に予算を確保していく。

4. 事業項目の達成度評価及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1. 教職員の教育・保育力の向上	
教育・保育の充実を図るため、教職員それぞれのスキルアップを目指す。	<p>教職員がさまざまな研修に積極的・自発的に参加できるような機会を作った。</p> <p>【園外研修】オンライン受講可能な研修が増えたため、各保育教諭が日々の課題を認識し、解決策や学びを得る機会を持つことができた。</p> <p>【園内研修】園の日常を振り返り、一人ひとりの子どもの成長や子どもをとりまく環境についてなど、身近な課題について皆で対話、検討し合って、キリスト教保育の実践を毎日の実務に落とし込む大切さを互いに確認しながら教育・保育力向上に努めた。</p>

2. 教育・保育環境の改善	
(1) 保育教諭の人員を確保し、余裕のある教育環境の充実を目指す。	非常勤による保育教諭の確保に努めた。
(2) 異年齢保育の充実を図る	異年齢交流による世代間の違いと社会的経験の学びの大切さを通し、教育・保育環境の工夫を行うように進めた。
(3) 安全管理	経年劣化による予想外の修繕や改善について、安全面を考慮して教育・保育に支障がないように適宜対応した。
(4) 災害対応	南海トラフ巨大地震などの不測の災害を想定し、避難訓練等を毎月実施。実践的な対応力を共有した。
3. 働きやすい職場環境の整備	
教職員間のチーム連携強化と積極的な教職員採用への取り組み	産休・育児休暇を取得する職員が多かったものの、継続して園で働く意思を確認できた。また新規採用職員も迎えた年でもあった。一方、成長に課題があり配慮を要するこどもたちの対応も増えている。そのような状況下、チーム内で互いの役割を理解し助け合う必要に迫られた。教職員体制の充実させるため、非常勤職員の採用を目指したが思うように人材確保に至る環境整備が整わない現状があった。 デジタル化(ITC)を現場に即した形に変えて進めてはいるものの、教職員間で統一した運用共有が難しい現状もある。
4. 計画性を持った子育て支援の実現	
地域・社会で必要と求められているさまざまな支援の実施	P.T.A.活動やキンダーカウンセラーの実施は、「こどもを真ん中」において園の教育・保育を実践する上で、大きな支えと役割を担っている。また、コロナ以降に、再開した園庭開放や一時保育は、現状にあった子育て支援の観点から、必要と求められている運用についての検討が今後の課題である

5.100周年記念事業の進捗

クラウドファンディングの成果	在園保護者はもとより卒園生、卒園児保護者、教職員、教会関係者をはじめ近隣の方々まで多くのご支援をいただき、目標金額を超える1,040万円の寄附を集めることができ、園庭創りの第一歩を踏み出すことができた。
----------------	---

5. 学校評価の具体的な目的や計画の総合的な評価結果

理由
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に見直された園行事の取り組みは、日ごろから園が目指しているひとりひとりの育ちを大切にし、行事のための保育ではなく、日常の子どもの姿から工夫し、その環境を整えることで子どもの成長がより育まれている。これからも子どもの豊かな育ちにつながる教育・保育計画を期待している。また、そのために今後も、保護者との直接的関係性の構築を丁寧に進めてほしい。 2024年は、創立100周年を迎えた。そこで、次の100年の愛光物語が生まれるために新たなチャレンジを、園の基本理念に基づいて進めてほしい。

6. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 教育・保育の質の向上	教育・保育についての現状課題を共有できるような対話型のチーム構築の充実を目指していく。また、100周年を迎える中で、園の精神的な支柱となるキリスト教保育の理解を更に深めるように努力する。
2. 教育・保育環境の改善	乳児クラスから幼児クラスへの接続や年長児の小学校への接続を目指す異年齢保育を充実させ、教育・計画の立案の見直しを図っていく。また、安全面(災害含)における必要に応じた改善策を講じていく。
3. 職場環境の整備	尊敬し合うよりよい人間関係構築を大切にする。また人員の十分な確保を目指し、継続して教職員採用への取り組みを強化する。
4. 子育て支援の充実	地域や社会に求められている支援と園で実現可能な内容を新たな視点の中で精査しながら支援内容を検討し、安心して子育てを楽しめる環境の提供の実現を目指す。

5. 100周年事業の計画と実施	<ul style="list-style-type: none"> クラウドファンディングの寄付金によりシャトレーの解体の目途がつき、2025年度の夏休みに解体作業が本格的に始まった。 寄付依頼については、多量送付のためご迷惑をおかけしたケースもあり、反省するとともに多くのみなさまのご協力に感謝する機会となった。 2026～27年に向けて新たな園庭の青写真を園児・保護者・教職員等多くの方々のご意見を伺いながら描き取り組んでいく。
------------------	--

7. 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 評価されているポイント <ol style="list-style-type: none"> 入園当初は慣れない環境に対する反応を示す子どもたちも多くいるが、相手の立場に立って子どもたちに寄り添い、ありのままで受け入れる先生方の姿勢やクラスや担当だけでない、すべての教職員が全園児の名前を覚え、園での様子など保護者に声をかけ、ひとり一人を大切にしてくれることが安心につながっていることを評価いただいている。 ゲームやネットなどの先端機器は、ともすれば一方通行の情報を受ける環境下に置かれる。そのような環境は、子どもだけでなく大人も気をつけないと自分自身を見失いがちな時間を過ごしてしまう。園では、ひとときだけでも他者と共に静寂の中で祈り、聖書のお話を聞いたり、讃美歌を歌う礼拝の時間がある。この時間は子どもたちにとって貴重なそれぞれのこころと向き合う経験となる。 工夫を凝らしたあそびの中でも異年齢で遊ぶためか、上の子どもたちが下の子どもたちの気持ちを理解し思いやりをもって接するよう自然となってくる。この姿を見ることで、子どもたちが日々成長しているという実感が湧いてくる。 <ul style="list-style-type: none"> 当園の保育方針に賛同してくださるご家庭が多い中、園舎や園庭の規模も限られ、保育教員の職場環境を考えると当園で受け入れることのできる子どもたちの人数におのずと制限がある。子育て家庭に多様な働き方やライフスタイルに影響されず子育て支援強化を積極的にお手伝いできないのは心苦しい。 日常的なコミュニケーション手段として園だよりや保護者会、個人懇談会、PTA活動などあらゆる手段を総動員しているが、それだけにとどまらず毎日の送り迎えの保護者との直接の会話を重要視している。相互に温度差が生じないように対面での時間を極力積み重ねていけるよう努力している。

8. 財務状況

2025年5月31日、公認会計士より適正に運営されていると認められた。